

2014.4/ No.140

大阪大学の今を紹介する情報誌

阪大 NOW

濃いつ! 阪大 — マチカネワニ編 —

阪大の至宝、マチカネワニ

Contents

03 Topics

ようこそ、大阪大学へ

平成26年度入学式

平成25年度卒業式・大学院学位記授与式

12 濃いっ!阪大1 — マチカネワニ編 —

阪大の至宝、マチカネワニ

22 濃いっ!阪大2 — 教育研究編 —

留学生が悩む日本でのコミュニケーション

～ たかが雑談、されど雑談 ～

24 役員室だより

32 阪大ほっとニュース

37 人事

40 受賞・表彰

42 Information

表紙写真：総合学術博物館へのサイン（左）



表紙写真撮影：クリエイティブユニット 准教授 伊藤雄一



Topics

ようこそ、大阪大学へ

新入生・フレッシュマンの皆さん、
新しく大阪大学の門をくぐられた全員の方を心から歓迎いたします。

大阪大学

平成26年度入学式 総長告辞 <要旨>

「適塾」から「世界適塾」へ

大阪大学に入学ならびに進学されました皆さん、おめでとうございます。また、ご臨席いただきましたご家族の皆さま、関係者の方々に心よりお祝い申し上げます。

あらゆる可能性を秘めた前途洋々たる皆さんは、大阪大学の一員として、あらたな人生を踏み出すその第一歩を迎えられました。大阪大学総長としてこの上もない喜びであり、大阪大学は心から皆さんを歓迎いたします。

「なぜかと問う」ことの大切さ

皆さんは全国から未来や夢、様々な思いを胸に大阪大学に入学されました。皆さんにとっての大学とはなんでしょう?皆さんは小学校、中学校、そして高等学校などで勉学に励んでこられました。しかし、幼い頃には不思議に感じていたことで、大人になるにつれて、いつの日か「そういうものだ」と思考を中断してしまったものがあると思います。たとえば、宇宙はどのようにして誕生したのか?生命はどこから、どのようにして誕生したのか?なぜ熱帯魚はあれほどきれいな模様をしているのか?確かな答えがわからないことは無数にあります。ある疑問は素朴であるが故に、また他の疑問は日常的であるが故に、多くの人はいつしか疑問すら抱かなくなってしまうと思います。大学とは、このような知識を積み重ねるだけでは解けない疑問を明らかにし、問題の奥深くに潜む原因を浮き彫りにする、あるいは未だ人類が答えを知らない疑問に対する解答を探すところです。

ペニシリンを発見したイギリスの Fleming は、当時感染症治療の薬剤の開発に情熱を傾けていました。その彼が、実験操作のミスで培養皿に混入したと思えるカビの周りでは細菌の生育が阻止されていることに気づきました。普通なら実験が失敗したと考えて捨てるところですが、彼は「カビの成分が細菌の生育を阻止したのではないか」と考えたのです。そして、想定される成分をペニシリンと命名したのです。時に 1928 年のことです。

その後、Fleming の論文を読んだハワード・フローリーとエルンスト・チエーンらがペニシリンの精製に 1940 年に成功しました。Fleming、フローリーとチエーンの 3 人は 1945 年にノーベル医学・生理学賞を受賞しました。ペニシリンの発見により世界中で計り知れない命が救われることになりました。

このペニシリン物語は偶然の発見、すなわち「セレンディピティ」の典型的な発見物語の一つとしてよく語られます。しかし、決して偶然で発見されたのではなく、Fleming の優れた観察力と知的好奇心に満ちあふれた柔軟な心が彼をペニシリンの発見に導いたのだと思います。このような知的好奇心に満ちあふれた非連続的で常識を覆すような基礎研究の成果は、人類社会に技術革新を引き起こし様々な革新的な製品となり、あるいは先端医療となり社会に還元されます。さらに、学問が果たす役割には、社会への夢とロマンの供給と言う大きな役割があります。芸術が人の心を豊かにするよう、知的好奇心の追求としての学問は、社会に夢とロマンを与えるのです。大学は、未来の原泉であるとともに、人々に夢をもたらします。そのもとは、「なぜかと問う」君たちの知的好奇心です。

「物事の本質を見極め 世界に羽ばたく」

皆さんは、日本は勿論、もっと広く世界に目を向け、「社会の変化に対応する」力を身につけなければなりません。では、現代の社会が求める人材、その能力とはどのようなものなのでしょうか?例えば、決断力、行動力、そして言語運用能力を含むコミュニケーション能力。これらは、しばしば優れたリーダーの素質として語られます。確かにこれらの能力を身につける必要はあります。しかし、急速に変化し続ける現代社会においては、これらの汎用的能力だけでは十分ではありません。これから社会が求める人材とは、多元的な課題に潜む物事の



本質を見極め、従来からの常識や考え方を超えた課題解決を先導できる人材であると私は考えます。「物事の本質を見極める力」とは、現象として認知可能な事象の奥に潜む、その事象のカギとなるもの、そしてその仕組みを見極める力を意味しています。この力の基盤となるのは、特定の分野をとことんまで究めた高度な専門性です。大学が最先端の研究を行い、それに基づく高度な専門教育を行う意義はここにあるのです。

また、物事の見方の転換も重要かもしれません。例えば、科学技術の力で自然を征服するという発想ではなく、如何にすれば人類は自然と共生できるかを真剣に考える必要があります。また、老・病・死など人間が避けて通れない問題も、今までは生命科学や医学の発展により克服するという姿勢で研究が行われてきました。しかし、そのような発想を転換し、どのようにすれば人類はこれらの問題と共生し、心安らかな人生を全うできるかを、見つめなおす必要があるでしょう。このように、物事を見る時一面から見るのではなく、複眼的に様々な観点から見る必要があります。

これらの視点を養うのは、幅広い教養教育です。教養教育は単に知識の蓄積ではなく、広く柔軟な視点の獲得に繋がるものとして重要です。

輝く「世界適塾」を目指して

176 年前に設立された「適塾」を原点として、「懷徳堂」の精神を受け継ぎ、大阪府民の熱意に支えられた本学は、2031 年には大阪大学は創立 100 周年を迎えます。その時大阪大学は、「世界適塾」として世界でトップ10 に入る研究型総合大学になることを目指しています。176 年前の適塾には日本各地から志ある若者が集まり、大いに勉学に励み、適塾で学んだ新しい知識や技量を携え、再び全国に散らばり明治維新の新しい時代を切り開きました。

「世界適塾」には、国内はもとより世界中から研究者や留学生、向学心溢れる人たちが大阪大学の学問と研究を目指して集まり、学問や研究を究め、やがて大阪大学から世界中に羽ばたいていきます。世界適塾元年である記念すべき年に入学された皆さんは、本日より、私たちと一緒にこの大阪大学の大きな夢に向かって新たな歴史の1ページを共に書き継ぐではありませんか。

平成26年4月2日

大阪大学総長



学部生 3,510 名、大学院生 2,894 名が 大阪大学に入学

4月2日(水)、大阪城ホールで行われた平成26年度入学式は、満開の桜が新入生を迎えました。大阪大学に入学、進学されました学生の皆さん、おめでとうございます。



平成25年度卒業式・大学院学位記授与式 総長式辞<要旨>

「グローバル社会における調和ある多様性の創造」



大阪大学から新たな一歩を踏み出さんとされている学部卒業生の皆さん、大学院修士・博士課程修了生の皆さん、専門職博士課程を修了された皆さん、おめでとうございます。これまで皆さんが大阪大学で苦労を積み重ねてこられた努力と研鑽に対して心からお祝いし、讃えたいと思います。大阪大学で学んだ皆さんは、グローバルに活躍できるリーダーとしての資質と能力が備わっていることを誇りに思い、品格と責任を持って社会に進んでいただきたいと思います。

「グローバル社会」

人類は長い歴史を経て、人間の活躍の場は比較的「均一性」の社会から、「多様性」の世界へと急激に変化を遂げてきました。言語、慣習、文化、民族、宗教、そして政治や国家、地球上には様々な多様性が存在します。今や地球規模での経済活動やそれに伴う人の交流により人の活動の場は均一性から多様性の存在する空

間へと激しく変化しています。また、地球規模での気候変動、エネルギー問題、食料問題や人口問題、そして感染症問題など様々な原因が複雑に入り組み、それぞれの問題解決が困難な状況になっています。地球規模で語れば語るほど物事は複雑に絡み合い、全ての問題は多様な要因を考えなければ物事の本質を見極めることは不可能な事態に陥っています。様々な紛争は、民族や宗教などの人類社会が有している多様性が基になっている例が多く存在します。人々が国境を越えて国際的に活動する現代においては多様性が人類社会に様々なコンフリクトを惹起します。その意味では多様性はグローバル社会においては大きな障壁でもあります。このため、均一化する必要性、グローバルスタンダードの必要性が叫ばれます。しかし、考えておかなければならない重要な点は、多様性こそ人類を心豊かにする源泉であり、未来に発展するためにはかけがえのない要素であると言うことです。多様性があるからこそ人類はここまで発展し



てきたし、多様性があるからこそ将来も様々な事態に直面してもそれを克服しさらに発展できる能力を有していると考えられます。例えば、言語一つとってもグローバルに経済活動をするには今は英語が便利かもしれませんが、しかし、歴史が示すようにグローバルに使用される主たる言語は常に変遷してきました。また、言語は経済活動のほんの一つのアイテムであり、全体の中の一部でしかありません。単なるコミュニケーション手段の一つでしかありません。現在でも実用化されているようにスマートフォンに組み込まれている言語認識ソフトがさらに発展すれば言語の壁は過去のものとなる可能性もあります。

「グローバルスタンダード」という言葉からイメージされることは、「グローバル化」=「均一」であります。事実グローバル社会においては英語が重要な共通言語であり、物事も地球規模に照らして考える必要性に迫られてきました。これを突き詰めて行くと、全ての物事はグローバルスタンダードに基づき均一化する必要があることとなります。もっとも対極に位置するガラパゴス化は失敗の象徴のごとく語られることすらあります。ともすればグローバル化の流れは「均一性から多様性」という人類の歴史に逆行する感すらあるように思います。

「調和ある多様性の創造」

グローバル社会に生きるためには、グローバルスタンダードを確立して均一化するのではなく、逆に多様性を理解し、尊重し、維持することであり、かつ多様性を積極的に取り込みイノベーションの創造に役立てることだ

※全文は大阪大学公式ウェブページに掲載しています。



と、私は考えています。すなわち、「調和ある多様性の創造」によってのみ、グローバル社会の平和維持や、経済や社会活動に対するイノベーションを起こすことができるのではないのでしょうか？さらに、このことにより人類社会のさらなる発展があるのではないのでしょうか？様々な多様性が複雑に入り交じるグローバル社会においては、グローバル化、すなわち物事の均一化ではなく、「調和ある多様性の創造」が求められているのだと思います。

言語一つをとっても、大阪大学は25言語という多様な言語をカバーするとともに、アジアの諸言語の研究・教育で日本のトップに立っています。21世紀のグローバル社会において大学に求められる新たな役割は、まさに「調和ある多様性の創造」であると思います。グローバル社会においては多様性を維持しながら、多様性が生み出す障壁を乗り越えることが重要です。

大学は、学問という人類共通言語を有しています。学問は芸術と並んで、様々な障壁を乗り越える大きな力になります。学問を介して人と人との交流により、多様性の維持とそれが生み出す障壁の克服という、相反することの両立が可能となります。大学はこのように、「調和ある多様性の創造」によりグローバル社会に大きく貢献しなければなりません。大阪大学で学問を学んだ皆さんはグローバル社会で大きな役割を担うことになります。

平成26年3月25日

大阪大学総長

学部生 3,375 名、大学院生 2,674 名が 大阪大学を卒業・修了

3月25日(火)、大阪城ホールで行われた平成25年度卒業式、学位記授与式は、それぞれが思いを胸に晴れの日を祝っていました。学生の皆さん、おめでとうございます。





阪大の至宝、 マチカネワニ

コワそうでどこかカワイイ、世界レベルの知の役者「マチカネワニ」。
化石発掘から50年を記念して、その魅力とエピソードをまとめてお届けします。

マチカネワニ発掘50年に寄せて

総合学術博物館 招へい教授 江口太郎

マチカネワニ化石は、私が阪大理学部化学科に入学した2年前、昭和39(1964)年5月に大阪大学豊中キャンパス・理学部(A棟)建設の際に発見された日本で初めてのワニの化石です。入学時には発見の大騒ぎは静まっており、春のいちよう祭や秋の大学祭の折に、教養部の地学教室でそのレプリカが密やかに一般公開されていた程度であった。当時の私も、この辺りに大きなワニが生息していたんだ、というくらいの感慨しかなく、その標本が世界的にも貴重な学術標本であるとは夢にも思わなかった。

その後、私が本格的にマチカネワニに関わるようになったのは2000年頃だったと思う。当時、私は阪大に博物館を作るための設立準備委員会のメンバーだった。博物館の目玉標本としてマチカネワニがまず挙げられる。しかし、この頃、実物化石標本は2年間の予定で学術調査のため国立科学博物館(新宿分館)に貸し出されており、私の最初の仕事は、その標本の返還交渉となった。そこで出会ったのが小林快次さん(当時は福井恐竜博物館の学芸員、現在北海道大学総合博物館の准教授)で、国立科学博物館の富田幸光さん(当時、地学研究部古生物第三研究室長)とともに、マチカネワニの骨格化石1点1点を詳細に比較検討する古脊椎動物学研究に従事していた。

2002年4月に大阪大学総合学術博物館が国内で8番目のユニバーシティ・ミュージアムとして発足した。最初は現在の大阪大学会館(旧イ号館)の1室(現在スタジオ)にマチカネワニ・レプリカと鉱物標本などを展示していただけて、マチカネワニの実物化石は公開されずに木製の棚に収蔵されていた。

この間も小林さんたちの学術調査は続けられており、最終論文が2006年3月に国立科学博物館のモノグラフNo. 35として出版された。121ページにわたり全実物骨格化石の形態が記述され、分類学上の位置づけ(クロコダイル科・トミストマ亜科で現生ワニのマレーガビアルに最も近縁種)も確定された。この論文でマチカネワニ化石のタイプ標本として世界的認知が確立されたといっても過言ではない。これを記念して2006年12月に中之島センターで公開シンポジウム「マチカネワニのいた時代」を開催した。

実物化石を一般公開するようになったのは翌年(2007年)8月に待兼山修学館に博物館の展示場が完成してからであった。さらに、2010年に私と小林さんの共著で阪大出版会から『巨大絶滅動物マチカネワニ化石-恐竜時代を生き延びた日本のワニたち』を出版し、2012年に博物館創立10周年記念として「巨大ワニと恐竜の世界」展を開催してきた。また、理学部の発掘現場跡地に記念のモニュメントも設置した。

今年(2014年)の5月で、マチカネワニが発掘されてから丁度50年を迎える。これを機に夏休みに総合学術博物館で展覧会「奇跡の古代鰐・マチカネワニ—発見50年の軌跡—(仮)」、11月16日(日)には豊中市のアクア文化ホールで公開シンポジウム「マチカネワニ・サミット2014(仮)」の開催などが予定されている。また、豊中市や大阪府の教育委員会を通じて、国の登録文化財(天然記念物)への意見具申を行っているところです。本特集号でそれぞれを詳しく紹介します。

1 阪大の至宝、マチカネワニ

マチカネワニとはどんな生き物？

「マチカネワニ」という名称は、1965年に発表された論文^{※1}の中で、産地の名前をとって命名された「トミストマ・マチカネンセ (*Tomistoma machikanense*)」から付けられた正式な和名 (学名に対応する日本語表記名) です。

その後、マチカネワニをめぐる研究が重ねられ、2006年に出版されたマチカネワニ骨格化石の完全記載論文^{※2}で分類学上の位置づけが確定されました。マチカネワニは、クロコダイル科・トミストマ亜科に属すること、現在生きている唯一のトミストマ亜科であるマレーガビアル (*Tomistoma schlegelii*, 写真) に最も近縁であることなどが明らかになっています。

また、今回インタビューを行った青木良輔先生 (右ページ) は、1983年に発表した論文^{※3}でマレーガビアル属ではなく新しい属のワニであることを示唆し、現在の属名「トヨタマヒメアイ・マチカネンシス (*Toyotamaphimeia machikanensis*, 古事記に出てくるワニの化身とされる豊玉姫が起源)」を命名しました。



マレーガビアル
小林快次・江口太郎、大阪大学総合学術博物館蔵書5
『巨大絶滅動物 マチカネワニ化石 — 恐竜時代を生き延びた日本のワニたち』
(大阪大学出版会) より

※1
小島信夫・千地万造・池辺展生・石田志朗・亀井節夫・中世古幸次郎・松本英二、1965. 大阪層群よりワニ化石の発見。 第四紀研究, 4(2), 49-58.

※2
Kobayashi, Y., Tomida, Y., Kamei, T., and Eguchi, T. 2006. Anatomy of a Japanese tomistomine crocodylian, *Toyotamaphimeia machikanensis* (Kamei et Matsumoto, 1965), from the middle Pleistocene of Osaka Prefecture: the reassessment of its phylogenetic status within Crocodylia. National Science Museum Monographs, 35:1-121.

※3
Aoki, R. 1983. A new generic allocation of *Tomistoma machikanense*, a fossil crocodylian from the Pleistocene of Japan. Copeia, 1983 (1): 89-95.

マチカネワニ復元画
(2007年博物館のリニューアル・オープンに合わせて、最新の知見に基づいて描かれたもの。作者：イラストレーションダック 山本勉)



現在生息しているワニ類のほとんどは熱帯や亜熱帯の地域にすんでいます。マチカネワニ化石が発掘された地層の花粉化石の分析によると、マチカネワニが生きていた約50万年前の豊中付近は、現在とあまり変わらない植生と気温であったことがわかっています。マチカネワニは温帯型のめずらしいワニであったと考えられます。

— 青木良輔先生にお話を伺いました

— 青木先生は、なぜマチカネワニの研究をされることになったのでしょうか？

高校生のとき、たまたま「日本列島展」というイベントに行き、マチカネワニのレプリカを見学しました。当時はクロコダイル科の *Tomistoma* とされていたわけですが、その属に特徴的な下顎の1番目の歯の溝がなく、さらに上顎骨の7番目の歯が大きいということに気づきました。その後、様々なワニを調べてみると、顎の開閉にかかわる筋肉が付着する突起の形態に多様性があることに気づき、それをきっかけに現生のほかのワニとは全く系統的に異なるとされていたインドガビアルは、実はクロコダイル科の *Tomistoma* に近縁である可能性が高いという結果になりました。その過程で、マチカネワニは既知のいずれの属にも含まれないことも判明しました。つまり、マチカネワニと私のかかわりは「インドガビアル問題」から瓢箪からコマのように出てきたものでした。

— マチカネワニにしか見られない特徴とは、どのようなものとお考えでしょう？

マチカネワニの特徴は上顎骨の7番目の歯が犬歯状に大きく発達していることです。クロコダイル科のワニは、ふつう、上顎骨の5番目の歯が犬歯状に発達します。このような大きく鋭い歯には咬む筋肉の力が集中するので、より大型の動物を食物として利用することができます。しかし、現生のインドガビアルや中国の始新世から見つかる「セキユワニ」という化石ワニでは歯の大きさがそろっています。これは水中で長い口吻を薙ぎ回して魚を捕えるような種では、一部の歯が大きくなると小魚の捕獲に水力学的に不利になるからだと考えられます。マチカネワニは、上述のセキユワニから派生した可能性が高いと私は考えているのですが、その進化の過程で、ふたたび大型の獲物も捕食できるように、二次的に上顎骨の7番目の歯が犬歯状に大型化したとみられます。

— マチカネワニはどのような環境で生息していたと考えられますか？

ワニは熱帯の動物だというイメージがありますが、マチカネワニは温帯から亜熱帯に分布しています。かなり標高の高い場所にもいたようすし、海水の入り込む汽水域でも棲

息できたようです。15世紀まで中国の南部に分布していたことがわかっていますが、漢籍 (漢文で書かれた中国の書籍) によるとコイなどを主食に、シカやトラも食べていたようです。もちろんヒトも襲いました。

— 中国の伝説の動物「龍」の起源がマチカネワニであるとの説を仰っていますが、それを検証するためには、今後どのような研究が必要とお考えでしょう？

龍という文字は牙のある顎と四肢のはえた長い体をもつ狩猟の対象となる生き物を示した記号なので、実在の動物であるワニを意味していたのです。ただ、現代の分類学ではありませんから龍のタイプ標本があるわけでもないので、自然科学的な意味での検証はできないでしょう。しかし、龍の本来の意味がただのワニであることは既に中国の文献でも多く指摘されています。龍が伝説の動物とされてしまう経緯については拙著^{※4}をご覧くださいなのですが、「龍=ただのワニ」という関係を隠蔽しようとした「情報操作」の事例がいくつかあります。多くの漢籍に記された龍の姿は、龍が伝説の動物だとすると単なる空想になりますが、そのうちのいくつかは、本当のマチカネワニの姿を伝えるものかもしれません。藤原定家の「明月記」の記述が超新星の研究に大きく寄与していることは有名な話ですが、中国古典にもワニの研究に活用できる情報が多く埋もれているようです。

※4 青木良輔「ワニと龍— 恐竜になれなかった動物の話」平凡社新書



1 阪大の至宝、マチカネワニ

マチカネワニ化石はこうして発見された

1964年(昭和39年)、大阪大学豊中キャンパスでは、当時中之島にキャンパスがあった理学部の新校舎建設工事が行われていました。その最中である5月3日、当時予備校生だった人見功さん(現在高村功さん)らが「何かの骨片」と思われる化石を発見しました。それが、後に日本の古脊椎動物学の歴史を揺るがす大発見の序章でした。



発見当時(1964年)の大阪大学理学部

人見氏らが発見した骨片は、マチカネワニの肋骨の一部でした。最初は、「ゾウの化石かと思った」(人見さん)とのことだそうです。発見の翌日、大阪市立自然科学博物館(現在は自然史博物館)に鑑定を依頼したところ、すぐに発掘チームが発足し、5月10日に専門家による現地調査を経て、6月中旬から計4回にわたる発掘が開始されました。2回目の発掘(9月17日～18日)で、頭骨を含む大部分の化石を発掘。ここでようやく化石の正体は「ワニ」であることが判明しました。



理学研究科本館西側に、発掘した記念の場所を標するものとして記念モニュメントが建てられています。

マチカネワニ化石は、日本で発見されたワニ類の骨格化石の第1号であり、世界的にみてもワニ化石の中で最も完全な全身骨格化石の一つです。マチカネワニは日本の古脊椎動物学の歴史上最も重要なものとされています。

マチカネワニと同じ種類の可能性があるワニ化石が、その他の地域からも発見されています。その一つが、大阪府岸和田市流木町から発見された約60万年前のキシワダワニ化石です。最新研究では、キシワダワニはマチカネワニと同じトミスタ亜科とされています。よって、トミスタ亜科のワニが少なくとも60万年前には日本の地に現れていたことがわかっています。また、中国の歴史時代のデルタ堆積物から見つかったワニの骨格が、マチカネワニに類似しているという説もあり、近年までマチカネワニが生きていた可能性が指摘されています。

マチカネワニは全身骨格化石が発掘され、その後の研究で新しい種(1965年)および新しい属(1983年)を提唱する根拠になった標本(タイプ標本)に指定されています。その実物は大阪大学総合学術博物館に常設展示されています。展示の詳細は、18-19ページをご覧ください。

参考文献：小林快次・江口太郎、大阪大学総合学術博物館叢書5『巨大絶滅動物 マチカネワニ化石 — 恐竜時代を生き延びた日本のワニたち』(大阪大学出版会、2010年)、など

協力：きしわだ自然資料館



— 高村(旧姓・人見) 功さんにお話を伺いました

— 化石を発見した時はどのような気持ちでしたか？

自分の手で採集した骨の化石としては初めての発見だったので、嬉しかったです。当時の大阪周辺では、兵庫県明石市の西八木海岸が哺乳類化石のみつかる場所として一番有名で、台風の後などに行ったら何かあるだろう、と思って行ったことはあったが、そんな甘いものではなく、骨の化石は見つけることができませんでした。

— マチカネワニを初めて発見された時の印象をお教えいただけますか？

私は、待兼山の現場では掘り上げられたものを取ってくるだけだった。掘り上げられ、砕かれているものを一生懸命集めた。その中で、「何かの骨片」と思われたものは2つあった。一つは、肋骨だと思われる3つに割れた細長い骨。もう一つは、大腿骨と思われるもので、それは3つに割れていた。

— 発掘の様子をご覧になったとのことですが、どんな様子でしたか？ どのような気持ちでご覧になりましたか？

発掘が行われた9月17日の午後に発掘現場に行った。私が見に行った時には発掘作業がほとんど終わっていた。頭骨のみ、埋まったままの状態で、その日の内には掘り上げ(発掘)られず、次の日に掘り上げられた。他の化石は、その日に掘り上げられた模様だった。大阪大学の先生も、お昼休みとかに様子を見学に来られていた。当時、大阪大学は、「マンモス大学」と呼ばれており、「マンモスなのに発掘されたのはワニか?!」と言う人もいた。

大阪大学や京都大学の先生方が中心に発掘を行っていた。きれいな状態で掘り上げられていた。印象強かったのは、ワニの皮膚の下にある骨質の板が何枚も出てきたこと。それと、私は標本になってからしか見ていないが、胃の中にも石があった、3つくらい「胃石」が見つかったと聞いている。

— マチカネワニの化石を発見したことによって、その後、ご自身にとってどのような影響がありましたか？

周りは、高い評価をしてくれた。NHKで放送されたり、本(『ねむりからさめた日本ワニ』)のインタビューを受けたり、教

ワニ博士と初対面。
「可愛らしいですね。」

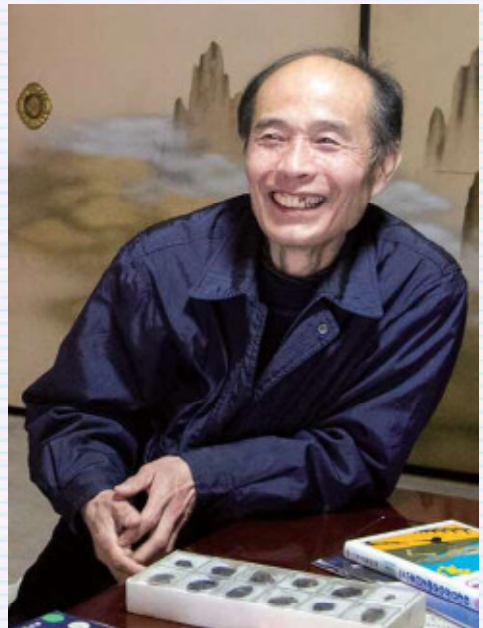


科書にも取り上げられた。発見をきっかけに、いろいろな経験をさせてもらった。

— マチカネワニの化石が発見されて半世紀を迎えました。それを迎えて、今後の研究などへの期待や抱負などありましたらお願いいたします。

ラッキーな要素が重なった。いい発掘例であったことは間違いない。このような例が2つも3つも出てきてほしい。それと、土が柔らかく化石が取り出しやすかった。土が固いと、化石のクリーニングなどが大変。

もう一つ、工事現場は塀で覆うばかりでなく、もっとオープンにしてほしい。事故が起きたら問題だが、そういう機会があれば、発見される要素は十分に残されると思う。私は、(散歩をして偶然発見できるような)いい時代に育ったんだと思う。



1 阪大の至宝、マチカネワニ

世界で阪大博物館のみ! マチカネワニ化石の実物展示
～巨大ワニの迫力と50万年の歴史を感じよう～

阪大総合学術博物館には、マチカネワニ化石の実物が常設展示されています。多くの博物館では、タイプ標本やそれに準ずる貴重な化石の実物は非公開となっていますが、阪大ではいつでも実物を観ることができます。総合学術博物館3階常設展「待兼山に学ぶ」に展示されています。発掘50年を機に、ぜひ一度訪れてみませんか。



詳細はウェブページ (<http://www.museum.osaka-u.ac.jp>) をご覧ください。

マチカネワニ化石 発掘50周年記念事業(予定)

2014年夏休み展覧会「奇跡の古代鱷・マチカネワニ—発見50年の軌跡—」(仮題)

日程: 平成26年7月26日(土)～8月30日(土)
会場: 総合学術博物館(豊中キャンパス)
主催: 総合学術博物館

マチカネワニ発見50周年記念シンポジウム「マチカネワニ・サミット2014」(仮称)

日程: 平成26年11月16日(日)
会場: 豊中市アクア文化ホール(豊中市中桜塚)
主催: 大阪大学 共催: 豊中市



【問い合わせ先】
総合学術博物館 Tel: 06-6850-6714 Fax: 06-6850-6720

マチカネワニ化石のレプリカが全国の博物館等に展示されています



1 阪大の至宝、マチカネワニ

大阪大学公式マスコットキャラクター「ワニ博士」

大阪大学豊中キャンパスで発見されたワニの化石（マチカネワニ）を元とした大阪大学公式マスコットキャラクター「ワニ博士」です。化石発見から50周年を機に、広く「ワニ博士」を大阪大学内外で使用できるよう使用マニュアルを制定しました。

【正式名称】
大阪大学公式マスコットキャラクター「ワニ博士」

【プロフィール】
名前：ワニ博士（わにはかせ）
誕生日：5月3日
性別：オス
出身地：大阪府 豊中市 待兼山町
誕生秘話：
1964年、大阪大学豊中キャンパス理学部の新校舎工事現場で、当時予備校生だった人見さん、大原さん（人見さんの友人）がワニの化石を発見しました。この化石は、マチカネワニ（学名：トヨタマヒメミア・マチカネンシス (Toyotamaphimeia machikanensis)）と名付けられ、性別はオス（の可能性が高い）と考えられています。この化石に、阪大の「知性」と大阪独自の「明るさ」が化学反応し、「ワニ博士」が誕生しました。



【喜・怒・哀・楽のパターンを作成しています。他のパターンが必要な場合はご相談ください。】



「ワニ博士」にモノを持たせてもOK

大阪大学公式マスコットキャラクター「ワニ博士」はOWLにアップされている使用マニュアルに従って使用してください。

<http://osku.jp/p019>

「ワニ博士」についてのウェブページはこちら

<http://www.osaka-u.ac.jp/sp/drwani/>

申請・問い合わせ窓口

大阪大学 広報・社会学連携オフィス広報課
TEL: 06-6879-7017
Email: ki-kousyagaku-kouhou@office.osaka-u.ac.jp

「ワニ博士」の着ぐるみ

大阪大学の公式マスコットキャラクター「ワニ博士」の着ぐるみは、本学における広報活動、教育研究活動など、大阪大学の様々な行事、イベントで使用してもらうことができます。貸し出しを希望される方は、広報課（内線7017）までご連絡ください。



学生とフォーチュンクッキーを踊る「ワニ博士」



まちかね祭で学生と記念撮影

留学生が悩む日本でのコミュニケーション

～たかが雑談、されど雑談～

『雑談の構造分析』（くろしお出版・2012年5月発行）という著書がある言語文化研究科日本語・日本文化専攻の筒井佐代教授は、「雑談」を対象にした研究をされています。日頃、仕事で留学生に日本語を教えている中で「雑談」は、一番教えにくいという。確かに雑談は「ただおしゃべりをするだけ…」といったイメージがあり、何をどう教えたらいいのか?!という問いが原点に。

「雑談」の研究をする一番の理由は？

「雑談」というものが、「よくわからない」ところに惹かれ、もっと知りたいという欲求が動機につながっている。「雑談」は話題や参加者の役割などの移り変わりが非常にダイナミック



筒井佐代著『雑談の構造分析』

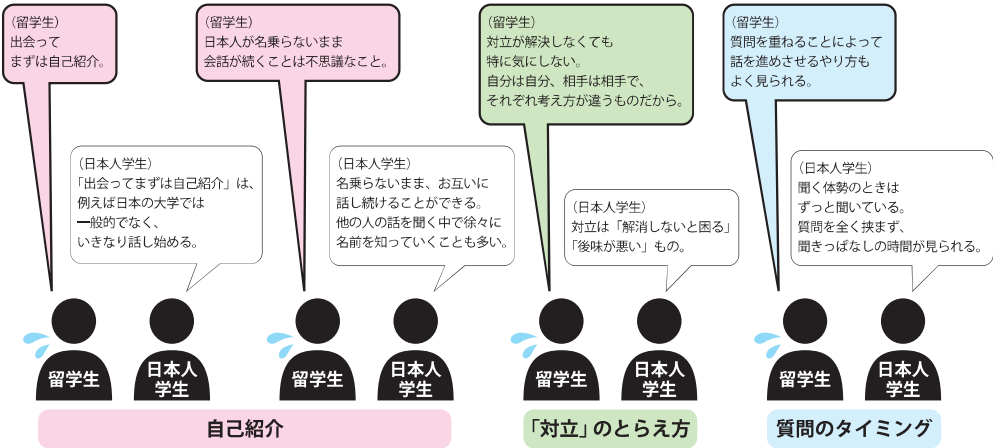
で、個人の興味や関心、その時の気分や感情を反映できる自由さがあがら、その言語・社会の規範によって制約を受けるという不自由さを兼ね備えているところが魅力的だ。地域や方言によって雑談の仕方が異なり、特に、関西人のデータを分析すると、関西弁の特徴が見えて面白いという。

「雑談」って何なのか？という研究はまだ目新しい

日本語の上手な留学生でも日本人の会話になかなか入っていけないという相談をうけることがある。留学生を悩ませる「雑談」の、体系的な指導が必要だと考え、研究対象として向き合うことにした筒井教授だが、「雑談」とはどういうもののなのかと学問的にとらえた研究は目新しいという。これまで、伝統的には談話分析という学問領域の中で相槌など会話の要素に関する研究はなされてきたが、「雑談」はもっと広い概念。そもそも「会話分析」を対象にする研究者はまだ少なく、さらに雑談を研究する人は少数という。

「雑談」とは「友人との何気ないおしゃべり」「飛行機や電車で隣になった人とのちょっとした会話」「会議の前に同僚とする小話」などであるが、相手が誰かによって、内容が変わり、分類やパターン化がとても難しい。

留学生を悩ませる日本人の「雑談」シーン



留学生にとって日本人の「雑談」とは？

留学生にとって日本人の「雑談」が日本語の大きなハードルになっている。「とりあえず『そうそう』『そうやんな』を繰り返して返してみる」「出た話題についていく」「相手の言ったことを肯定する」など筒井教授はアドバイスしてみたこともあるそう。日本人には当たり前のようなことが留学生には効果的なアドバイスとなる。ただ、2人の会話より3人の会話はより複雑になり、会話のタイミングや相槌の打ち方はより高度になる。



筒井佐代（つつい さよ）

1988 年大阪外国語大学 外国語学専攻 日本語学専攻修了。90 年愛知県立大学外国語学部専任講師、93 年大阪外国語大学外国語学部専任講師、95 年～96 年アメリカ合衆国ミネソタ大学客員研究員、97 年大阪外国語大学外国語学部助教授、2007 年大阪大学世界言語研究センター准教授、12 年同大学院言語文化研究科准教授、13 年同教授。専門は日本語教育学（話しことばの構造に関する研究）。

「日本語の良さ」をわかってもらう

日本語は相手のことを考えずに一人で勝手に話すことのできない言語です。会話でも、相手の話に合わせて相槌を打つためには、相手が何を言おうとしているかを理解しようとする必要があり、相手の考えや感情に寄り添おうとする言語といえます。

日本語について、「非生産的」という言葉は言い得て妙だと思うのですが、雑談は非生産的な部分があるからこそ成立するもので、全部が論理的で生産的だったら、息が詰まってしまいます。相槌のような無意味な音をたくさん出さなければならない日本語は、英語のように中身の詰まった会話と比べると、中身が薄く感じるかもしれませんが、日本語母語話者にはそのような「非生産的」な部分が落ち着くのでしょう。

留学生が、「どうして日本人ははっきり意見を言わないのか」と聞いてくることがあります。喧嘩するエネルギー、その後の修復に要するエネルギーを費やすことなく、微妙な調整で丸く収まる方が良く、私たちは

考えているのだと思います。狭い場所で小さい共同体で小さい体の民族が仲良く暮らすための知恵として、そういう方法を編み出したのではないかと想像しています。

また、日本語の授業では、良い悪いは相対的なもので、「日本語の良さ」という言い方は使わないことにしています。「日本語ではこうしている」ということをわかってもらって、必要な場面ですそれをうまく使えるようになればいいと思っています。



留学生とどのように接したらよいか・・・と悩む方がいたら

キャンパスには様々な国・地域からやってきた留学生がいますが、何の言語で話しかけにこだわらず、いろんな「国」に目を向けてほしいですね。留学生は、「自分の国を知ってくれている」というだけでうれしいものです。また、留学生は悪気がなく言ったりして

ることも、日本人からするとびっくりするようなことがあります。「文化が違えばそういうこともある」と認識しておくことでショックが少なくなります。このようなことを普段から心掛けておくと、共通の話題作りとなり、「雑談」につながると思います。



平成26年4月2日 大阪城ホール

「世界適塾」 物事の本質を見極め調和ある多様性を創造

21世紀のグローバル社会において大学に求められている新たな役割は、「学問による調和ある多様性の創造」であると考えます。地球上には、言語、慣習、文化、民族、宗教、政治、国家など様々な多様性が存在します。人類の発展はこの多様性によって支えられてきました。一方で多様性が生み出す様々なコンフリクトはグローバル社会においては障壁となり、紛争や戦争を引き起こすことすらあります。大学は学問という人類共通言語を有しています。学問はスポーツや芸術、あるいは経済活動等と並んでこの障壁を乗り越える大きな力となります。学問を介する人と人との交流により、多様性の維持とそれが生み出す障壁の克服という、相反することの両立が可能となります。大阪大学は学問の府として、「物事の本質を見極め調和ある多様性を創造」することにより、21世紀のグローバル社会に大きく貢献していきます。

総長 平野 俊夫

役員室だより

新理事



大木 高仁

人事労務戦略
多様な人材活用
事務改革担当

昭和58年4月 文部省入省
平成2年7月 同 教育助成局教職員課教員研修企画官
11年4月 同 学術国際局企画官
12年4月 同 大臣官房企画官
13年7月 文化庁文化財部記念物課長
15年7月 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課長
16年8月 警察庁生活安全局少年課長
18年7月 文部科学省初等中等教育局教職員課長
21年7月 文化庁長官官房政策課長
24年1月 同 文化部長
25年4月 文部科学省大臣官房審議官
26年2月 大阪大学理事（平成27年8月まで）

新監事



内藤 欣也

昭和61年4月 鎌倉法律事務所入所
平成2年3月 鎌倉法律事務所退所
2年4月 小寺・内藤法律事務所設立
3年4月 大阪弁護士会総合法律相談センター副委員長
（平成5年3月まで）
5年4月 大阪弁護士会業務対策委員会副委員長
（平成6年3月まで）
11年3月 内藤法律事務所設立
15年6月 Jトラスト株式会社社外監査役（平成27年6月まで）
16年2月 みずほパートナーズ法律事務所設立
20年4月 大阪大学法務室連携弁護士（平成26年3月まで）
21年4月 大阪弁護士会財務委員会副委員長（平成24年3月まで）
23年4月 大阪弁護士会業務改革委員会副委員長
（平成24年3月まで）
24年4月 大阪弁護士会副会長（平成25年3月まで）
近畿弁護士連合会常務理事（平成25年3月まで）
26年4月 大阪大学監事（非常勤）（平成28年3月まで）

新副学長



星野 俊也

海外拠点
国際問題担当

昭和59年3月 上智大学外国語学部卒業
61年3月 東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了
63年4月 外務省在アメリカ合衆国日本国大使館専門調査員
平成3年5月 財団法人日本国際問題研究所研究員
4年3月 東京大学大学院総合文化研究科修士課程修得退学
7年4月 財団法人日本国際問題研究所主任研究員
10年4月 大阪大学助教授大学院国際公共政策研究科
15年3月 博士（国際公共政策）（大阪大学）
15年7月 大阪大学教授大学院国際公共政策研究科
18年8月 国際連合日本政府代表部公使参事官
20年8月 大阪大学教授大学院国際公共政策研究科
23年4月 同 大学院国際公共政策研究科長（平成26年3月まで）
23年8月 同 総長補佐（平成26年3月まで）
26年4月 同 副学長（平成27年8月まで）



永田 靖

地域交流担当

昭和56年3月 上智大学外国語学部卒業
59年3月 明治大学大学院文学研究科博士前期課程修了
63年3月 明治大学大学院文学研究科博士後期課程退学
平成8年4月 大阪大学助教授文学部
11年4月 同 助教授大学院文学研究科
16年4月 同 教授大学院文学研究科
22年4月 同 教育研究評議会評議員（平成24年3月まで）
24年4月 同 大学院文学研究科長（平成26年3月まで）
26年4月 同 21世紀懐徳堂学主（平成27年8月まで）
同 適塾記念センター長（平成27年8月まで）
同 副学長（平成27年8月まで）



金倉 譲

病院運営担当

昭和54年3月 大阪大学医学部卒業
58年3月 同 大学院医学研究科修士課程修了
医学博士の学位授与（大阪大学）
58年4月 大阪大学医学部研究生
58年6月 大阪府技術史員（府立成人病センター）
59年7月 大阪大学医学部研究生
60年1月 同 医学部附属病院医員
60年7月 同 助手医学部附属癌研究施設
62年5月 同 助手医学部附属バイオメディカル教育研究センター
63年6月 同 助手医学部
平成9年1月 同 教授医学部附属バイオメディカル教育研究センター
11年4月 同 教授大学院医学系研究科附属バイオメディカル
教育研究センター
13年4月 同 教授大学院医学系研究科
24年4月 同 理事補佐（平成26年3月まで）
26年4月 同 医学部附属病院院長（平成28年3月まで）
同 副学長（平成27年8月まで）



下田 正

教育担当

昭和50年3月 京大学理学部卒業
52年3月 同 大学院理学研究科修士課程修了
55年4月 文部技官（大阪大学理学部附属原子核実験施設）
55年7月 京都大学大学院理学研究科修士課程修了
理学博士の学位授与（京都大学）
59年7月 同 助手教養部
平成2年3月 同 助教授教養部
6年4月 同 助教授理学部
8年4月 同 助教授大学院理学研究科
12年10月 同 教授大学院理学研究科
24年4月 同 理事補佐（平成26年3月まで）
26年4月 同 全学教育推進機構長（平成28年3月まで）
同 副学長（平成27年8月まで）

新たに2名の「大阪大学特別教授」を決定

大阪大学は、学問を介して「調和ある多様性」を創造するという理念のもと、創立100周年を迎える2031年に「世界適塾」として世界トップ10に入ることを目指しています。

その一つの方策として、大阪大学の未来戦略を推進していく上で、卓越した業績を活かし、先導的な役割を担う者に対し、その貢献を讃えるとともに、その活動をサポートすることにより、本学の国際的競争力のある世界的拠点となることを目指すため、「大阪大学特別教授制度」を平成25年4月に創設し、同年7月1日付けで10名に称号付与しました。

この度、選考委員会が部局長及び副学長から推薦のあった者について選考し、新たに次の2名に平成26年4月1日付けで大阪大学特別教授の称号を付与することを決定しました。

併せて、その研究活動をサポートするために「特別教授手当」が支給されます。



濱田 博司

（大学院生命機能研究科教授）
称号付与期間：H26.4.1～H28.3.31
功績：「発生生物学に関する研究業績」



三浦 雅博

（大学院工学研究科教授）
称号付与期間：H26.4.1～H29.3.31
功績：「有機合成化学に関する研究業績」



特別教授称号授与式（総長室）

未来戦略機構新拠点

未来戦略機構では、吹田キャンパスの「最先端医療イノベーションセンター棟」の3階に、本格稼働する戦略企画室や未来戦略支援事務室が移転し、リーディングプログラムの共通講義室も完備いたしました。

また、豊中キャンパスにおける文理融合教育研究の中核拠点の形成及び国際・イノベーションの創出を実現するための施設として「文理融合型研究棟」が竣工され、未来戦略機構からも教育研究推進部門の一部が入居しました。

未来戦略機構の企画部門として、機構の教育研究活動のマネジメントを支援し、本学における教育改革や新たな研究、グローバル化に関する戦略の企画、提言を行うため、教育改革、研究企画、IRの各チームを有する戦略企画室を平成25年度に創設しました。さらに平成26年4月には、IRチームに5名を採用し、大学運営に資する様々なデータの収集・分析・評価・提供を行う体制が整ったことにより、戦略企画室は、本格的に稼働いたします。



最先端医療イノベーションセンター棟



文理融合型研究棟

「未来戦略」に向けた人事・給与システム柔軟化の本格始動

大阪大学は、学問を介して「調和ある多様性」を創造するという理念のもと、創立100周年を迎える2031年に「世界適塾」として世界トップ10に入ることを目指しています。

その一つの方策として、「大阪大学未来戦略(2012-2015)」に掲げた「柔軟な人事制度の構築」を具現化する新たな3つの人事制度(年俸制教員制度(期間の定めのない雇用、65歳定年制)、クロス・アポイントメント制度、短期間勤務制度)を平成26年1月に導入しました。

平成26年4月からこれらの制度を積極的に活用した事例をご紹介します。

これらの人事制度は教員の給与制度の選択肢を増やし、教員の採用について各部局の自由度を広げること趣旨として導入しておりますので、今後もますますの積極的な活用を期待しております。

1. 「任期なし年俸制」教授をロシアから招聘

国際的に優れた研究者として、年俸制教員制度※1により、ロシア科学アカデミーの Faenov Anatoly(ファエノフ アナトリー) 氏を平成26年4月1日付けで未来戦略機構・教授として迎えました。

同氏は、パワーレーザーを利用して欧米をはじめ日本等との国際共同研究を多く手がけ世界的な活躍をしており、国際的な拠点を目標している大阪大学の光量子科学研究拠点形成への貢献が期待されます。

※1 国際的に優れた研究者等で大学が特に必要と認める者(教授クラス)を対象。

2. 理化学研究所と「クロス・アポイントメント制度に関する協定」締結

この度、理化学研究所と本学核物理研究センターは、「クロス・アポイントメント制度」※2に基づく協定を締結しました。

両機関では、かねてより共同研究が行われてきましたが、本協定により常勤の研究者を本学に迎え、両機関が今まで以上に緊密に連携していくことで、研究の飛躍的な発展が見込まれます。

<協定概要>

〔対象機関〕 理化学研究所 仁科加速器研究センター
大阪大学 核物理研究センター

〔対象者〕 理化学研究所 専任研究員 1名
大阪大学では特任准教授(常勤)として雇用

〔協定期間〕 平成26年4月1日～平成27年3月31日(1年間)

〔勤務割合〕 阪大：20%(月4回程度勤務)、理研：80%

※2 他機関との混合給与を制度化したもの。本学及び相手方機関の双方に身分を有し、双方の業務を行う。双方の勤務割合を協定で定め、勤務割合に応じた給与を各機関が支払う。

理事 大木 高仁

国際共同研究促進プログラム(平成26年度開始分)を選定

最先端の研究を展開している外国人研究者と共同研究を行い、本学の研究力を一層高めるとともに、グローバル化を促進するための事業として、平成25年度に「国際共同研究促進プログラム」を創設し、既に15件のプログラムがスタートしています。

この度、平成26年度開始分のプログラムの公募を行ったところ、全学で35件の実施計画書の提出があり、選考委員会において7件のプログラムを選定しました。

選定されたプログラムには、外国人研究者の旅費・謝金、教職員・学生の旅費、研究員の雇用経費など、1年度当たり最大1,500万円、最長3年間の支援を行います。

今回選定した7件のプログラムの研究代表者は以下のとおりです。

国際共同研究促進プログラム 採択一覧

研究代表者	外国人研究者所属機関(国名)
学阪 満里子 (人間科学研究科教授)	カリフォルニア州立大学(アメリカ) エルスタ・シェンダール大学(スウェーデン) フォーダム大学(アメリカ)
榎垣 立哉 (人間科学研究科教授)	パリ第10(ナンテール)大学 (フランス)
加藤 和人 (医学系研究科教授)	オックスフォード大学(イギリス)
河田 聡 (工学研究科教授)	モロッコ先端科学・イノベーション 研究機関(モロッコ)
関 修平 (工学研究科教授)	ワシントン大学(アメリカ)
杉田 米行 (言語文化研究科教授)	シカゴ大学(アメリカ)
伊川 正人 (微生物病研究所教授)	ベイラー医科大学(アメリカ)

各プログラムの研究概要は、本学公式ウェブページに掲載しています。

平成25年度の採択プログラムについても、ウェブページをご覧ください。

理事・副学長 相本 三郎

「未来知創造プログラム」募集しています

大阪大学で活躍する若手研究者が連携する「学内共同研究の仕組みづくり」を支援することにより、本学の将来を支える多様な研究を育み、創造性に富んだ、チャレンジングで独創的なアイデアと未来を拓く人材を輩出することを目的として、新たに「未来知創造プログラム」を創設し、次のとおり募集を開始しています。

- 支援対象
- 異なる研究分野の若手研究者の連携による共同研究
 - 本学の将来を支える研究となる斬新なテーマの提案
 - 人文・社会科学から自然科学までの全ての分野

- 研究グループの構成
- 異なる研究分野の若手研究者(本学と雇用関係にある、平成26年4月1日現在で45歳以下の准教授、講師又は助教)3名からなる研究グループ。
- 研究グループは、研究代表者1名、共同研究者2名とする。
- 3名の他に、学外研究者1名を研究協力者として加えることができる。

- 支援金額 各年度50万円～300万円
- 支援期間 3年以内(平成29年3月まで)

- 採択予定件数 10件程度

- 提出期限 5月30日(金)

- 実施スケジュール(予定)
- 公募時期：平成26年4月～5月末
 - 審査：平成26年6月上旬 書類審査
平成26年6月中旬 ヒアリング審査
(必要に応じて実施)
 - 採択決定：平成26年6月下旬
 - 採択通知：平成26年7月

※募集要項、提出書類などの詳細は、学内専用サイト「マイハナビ」に掲載しています。

理事・副学長 相本 三郎

大型放射光施設 SPring-8、X線自由レーザー施設 SACLA を訪問

3月20日、平野俊夫総長以下、理事、副学長、監事、SPring-8とSACLA(SPring-8 Angstrom Compact Free Electron Laser)で実験を行っている学内グループの代表者ら、総勢26名が、大型放射光施設SPring-8とX線自由電子レーザー施設SACLAを訪問しました。

SPring-8とSACLAは、理化学研究所によって運営されており、理化学研究所放射光科学総合研究センターの石川哲也センター長をはじめとする理研所員、SPring-8の運転・管理を行う財団法人高輝度光科学センター(JASRI)の職員と懇談しました。

冒頭、平野総長より、SPring-8とSACLAは大阪大学の学術研究の発展に多大な貢献をしており、それを可能にしているのは放射光科学総合研究センターとJASRIの全面的な支援と協力のお陰であると、感謝の言葉が述べられました。さらに、両施設と大阪大学とのより密接でスムーズな協力関係を築くために、SPring-8キャンパスに大阪大学の個別の利用者グループを取りまとめる拠点を作るという構想について意見交換をし、設立に向けて積極的に検討することになりました。

懇談会の後、施設見学を行い、蛋白質超分子構造解析を行っている蛋白質研究所のX線結晶構造解析装置、核物理研究センターのレーザー電子光を用いたクォーク核分光装置、SACLAに隣接して設置されている未来戦略機構・光量子科学研究部門のパワーレーザー装置、工学研究科の山内和人教授が開発されたOsakaミラーと呼ばれるX線光学用ミラー、SACLAなどの説明を受け、大阪大学の多彩で高度な研究が展開されているとの実感を持ち、訪問を終えました。

理事・副学長 相本 三郎



海外拠点の名称が変わりました

本学は、平成16年以降、世界4か所に海外拠点を開設し、学術交流の推進を図ってきました。このたび、この海外拠点をより有効に活用するとともに、海外拠点の活動の範囲を、「点から面」に、「都市から地域」へと拡張すべく、拠点名称を次のとおり変更しました。

・サンフランシスコ教育研究センター → 北米センター
・グローニンゲン教育研究センター → 欧州センター
・バンコク教育研究センター → ASEANセンター
・上海教育研究センター → 東アジアセンター



また、各海外拠点の活用を図るうえで、北米地域・欧州地域においては、部局と現地大学における留学プログラムとのマッチングを行い、本学学生の海外派遣の促進を目指し、ASEAN地域・東アジア地域においては、現地大学・高校とのネットワーク構築と優秀な外国人留学生の獲得を活動方針として定義しました。

この活動方針のもと、北米センター、欧州センター、ASEANセンターには常駐のセンター長を配置し、今後様々な活動を通じて、海外における本学のプレゼンス向上に努めてまいります。

理事・副学長 岡村 康行

東京で初めて報道関係者との懇談会を実施

3月26日(水)に開所した大阪大学東京オフィスで、首都圏の報道関係者との懇談会を開催しました。

これまで東京では、研究成果などを単発的にリリースしていましたが、関東地域での大阪大学のプレゼンスを高めるため規模を拡大して実施したもので、7社から20数名の報道関係者の出席がありました。

同懇談会では、平野俊夫総長から大阪大学の特徴や強み、どういう大学を目指すのかなどを説明し、意見交換を行うなど1時間余り懇談しました。懇談会後には東京オフィス開所式を開き、出席者に大阪大学をアピールするよい機会となりました。

今後も年数回、東京オフィスで懇談会を開催することにしていきますので、各部局の最新の研究成果やトピックスなど情報提供をお願いいたします。

理事・副学長 岡村 康行



未来基金 “創立100周年ゆめ募金”



卒業生、保護者、教職員、法人など多くの方からの支援をいただいた御陰で、未来基金の受入総額は27億円、残高は21億円(平成24年度末時点)にまでなっております。基金は運営費交付金では支払えない学生への奨学金などに使って参りました。将来は、日本のみならず世界から優秀な学生を集めるためにも、運用益で奨学金を賄えるようにしたいと考えております。そこで、創立100周年には100億円の基金とすることを目標に平成25年10月より「大阪大学未来基金」創立100周年ゆめ募金」をスタートしました。今年1月より学内キャンペーンを開始しております。教職員の皆様の寄付参加率の高さは、学外の皆様からの寄付をいただく上で大きな説得力となります。皆様一人一人の寄付が、より多くの人の寄付につながります。是非、ご協力をお願いいたします。

基金室長
理事・副学長 大竹 文雄

卒業生室が始動

大阪大学と10万人を超える卒業生との結束と交流をさらに深め、「阪大ファミリー」としての意識を高め、共に発展していくための施策を企画・推進するため、総長の下に「大阪大学卒業生室」を昨年設置しました。2031年の創立100周年、さらにはその先の未来に向かって、平成26年4月から本格的に稼働します。

具体的には、以下のような活動を計画しています。

1. 卒業生情報のデータベース化
2. 生涯利用可能なメールアドレス「OUMail」の提供(2014年3月卒業・修了生から順次)
3. 卒業生への情報発信
4. 卒業生向けイベントの企画実施

また、卒業生室の活動にあたっては、本学同窓会連合会及び各学部・研究科等の同窓会組織と密に連携しながら取り組んでいきます。

卒業生、教職員のみなさんにはご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

卒業生室長
理事・副学長 大竹 文雄



OUMail (Office365) ログイン画面

大阪大学未来戦略機構シンポジウムを東京で開催

第八部門・光量子科学研究部門

「Opt Osaka 2014 in Tokyo—大阪大学の光科学 100—」

3月6日(木)、東京大手町サンケイプラザで、大阪大学未来戦略機構シンポジウム「Opt Osaka 2014 in Tokyo—大阪大学の光科学 100—」を開催しました。

当日は、約500名の参加があり、「光科学における様々な連携研究」と題して、未来戦略機構第八部門(光量子科学研究部門) 児玉了祐部門長、フォトニクスセンター河田聡教授、レーザーエネルギー学研究センター崎地宏センター長が講演し、100を超える研究グループによる盛大なポスターセッションが行われました。

会場は、大阪大学の11部局2組織の光科学に関係する研究成果ポスター 100枚以上が立ち並び、レーザーを用いた基礎科学から医療への応用研究まで幅広く意見交換する研究者たちの熱気に包まれました。



熱気あふれる会場



ポスター発表会場で説明を受ける平野俊夫総長



河田教授による講演



児玉部門長による講演

第六部門・創薬基盤科学研究部門

「アカデミア基盤研究から未来創薬へ」

3月27日(木)、学士会館(東京)で、大阪大学未来戦略機構シンポジウム「アカデミア基盤研究から未来創薬へ」を開催しました。

このシンポジウムは、未来戦略機構第六部門(創薬基盤科学研究部門)が主催し、大阪大学の創薬研究への取り組みと難病克服に向けた技術開発などを紹介したものです。

当日は、150名を超える参加者があり、「ウイルスに学ぶ創薬研究～基礎から臨床へ～」と題して、医学系研究科の金田安史研究科長から特別講演がありました。また、「難病治療に向けた探索的創薬研究」をテーマに、医学系研究科の金井好克教授、山下俊英教授、薬学研究科の小比賀聡教授の3名が講演し、続いて「創薬支援のための技術開発研究」をテーマに、蛋白質研究所の高木淳一教授、工学研究科の森勇介教授、薬学研究科の堤康史薬学研究科長、水口裕之教授の4名から講演がありました。

最後に、土井健史第六部門長からアカデミアでの創薬を組織としてどう取り組むのかについて紹介があり、創薬をキーに様々な研究科が取り組んでいる大阪大学の多様性と可能性が語られました。



内閣府・西村康稔副大臣による来賓挨拶



平野俊夫総長による開会挨拶



アステラス製薬株式会社・野木森雅郁会長による来賓挨拶



金田研究科長による特別講演

震災シンポジウム 学生協賛企画 学生ボランティアたちの福島への想い

「福島を感じて考えるスタディーツアー」 スタ☆ふく

『スタ☆ふく』は、『スタディーツアー福島』の略で、メディアを通じてではなく、参加者自身の目で福島の“今”を感じてもらうことを狙って2012年4月からスタート。

地元の旅行会社などの協力を得て参加者を募り、1回のツアーで20～35名が参加する。構成は大学生から50代の社会人まで幅広く、その7割が県外からという。これまでにツアーを6回開催。会津地方の観光地として有名な喜多方市は、年間7000人訪れていた観光客が震災後は0人にまで落ち込んだ。ツアー参加者は実際に観光しながら風評被害に立ち向かうNPOの方々に密着し、福島の観光地の“いま”を感じた。また、農業で有名な二本松市では、ツアー参加者が農業体験を通じて「福島の野菜は大丈夫なの？」という漠然とした疑問に農家と直接向き合った。



スタ☆ふくプロジェクトの福島大3年遠藤はるひさん(写真右、左は平野俊夫総長)は「東京、大阪、四国等から何度も来てくださる方も居て、ツアー後に福島の“今”を語る情報発信の起点になってくれているのが嬉しいですね」と、充実の表情を見せてくれた。

「大阪に居ながらできる支援を」 3.11 関西学生ネット阪大

2011年震災後早くから阪大の学部を越えた有志のメンバーでスタート。

現在行っている活動は大きく2種類。福島の原発問題について、原発作業員や現地に住まわれている方に話を聞くなどのフィールドワークを行うチームと、大槌町の人たちと交流するプロジェクトを進めるチームがある。

阪大4年の遊佐教継さんが行う『希望のひとはり』プロジェクトは、「大槌町のお母さんたち」と名産の手芸品をつくる。デザインは学生が行い、お母さんたちが縫いあげる。出来上がったものは、いちよう祭やまちかね祭、阪大近隣の市のフリーマーケットなどのイベントで販売し、利益はお母さんたちに返す。震災後バラバラになっていた町の女性たちが集まり、取り組むことで、やりがいを感じてもらったり、コミュニティの再生へつなげることが狙いだ。

震災当初多かった瓦礫を撤去するなどのボランティアは、街づくりとともに徐々に必要性が薄まり、ニーズが変わってきた。大槌町の方々と話をしたのがきっかけだった。遊佐さんは「まずは、現地の皆さんが何を求めているかニーズを受け止めることから始めることにしました。大阪に居ながらできる支援を模索していきたいですね」と優しく遅く語ってくれた。



大槌町のお母さんたちと

「つながる力」はスゴイ！ ツナボラ

ツナボラは「つながるボランティア」の略。代表の阪大博士前期課程1年の大門大朗さんは、頑張る学生をサポートしたい、とボランティアセンターの役割を担う組織としてツナボラをスタート。

実は、阪大には、環境ボランティアなど社会的な活動を行うサークルや団体が約40もある。しかし、こうしたサークルは比較的歴史が浅くネットワークが希薄だった。そこで、大門さんは、自分たちがハブになって、これらの団体が一堂に会するイベントを開くことを決意。それが昨年からは始まった“Social Life”という社会系サークルが集まった新入生向け合同説明会だ。

いきなり一大イベントを呼びかけても参加は望めないため、自分たちと他のサークルがつながることから始めた。まず、ボランティア活動の報告会を企画し、阪大の社会系サークルの中でも規模の大きい2団体を含むいくつかの団体に声をかけた。「ここが行くなら行こうかという空気を作ったかった」と大門さん。そして、約10団体からイベント参加の確約を取り付けたうえで、社会系サークル全体にイベント開催の告知を行った。結果は、予想を上回る25の団体が参加。2回目となる2014年度は31の団体が参加するという。

ツナボラの活動理念は「みんなで たのしく つながる」だそうだ。つながることで生まれるパワー、それを生み出す学生たちに期待したい。



イベント運営サポートの様子

2014年3月8日(土)、大阪大学中之島センターで福島大学主催、大阪大学が共催となって震災シンポジウム「福島の『今』、そして『未来』へつなぐー東北への思いを関西への想いへ」を開催しました。

その日、中之島センター1階ロビーでは、震災以降ボランティアなどの活動を行っている福島大、阪大の4つの学生団体がポスター発表を行いました。

大阪に福島の“今”を届けてくれた学生たちの活動の一端をご紹介します。

「大学、そして福島県を元気にしたい」 福島大学災害ボランティアセンター（学生団体）

2011年3月、30人ほどの福島大生から始まった災害ボランティアセンター。現在は330人まで増え、仮設住宅での傾聴活動、被災者向け10円バザーの開催、子どもを県内で遊ばせたくないという親御さんの声を受けて、子ども達を遠く離れた海まで連れて行き遊ばせるなど、多様な活動を行っている。

福島大2年の三浦恒彦さんは北海道出身。ピアノを学ぶため音大に行くつもりだったが、震災を経験したことで、県外にいる自分と被災者との間に温度差を感じ、音楽を使って何かしたいと福島大へ。当初、ピアノの特技を生かして

仮設住宅でコンサートを開くなどしたが、一方的な押し付けにしかないと感じ、まずは聴くところから始めようとした。傾聴活動に力を注いだ。

被災者の本音を書いてもらうための「つぶやきカード」には、『孫が残っているので心配だ』、『帰りたいけど帰れない』、『もう帰れなくてもいい』など普段からは見えづらい被災者の苦悩が綴られていた。



現在、三浦さんはこうした色々な想いを抱えて生活していることを県外の人たちや、時間を越えて後世にも伝えるべく曲を作成中だ。タイトルは「想い」。実際の声を曲として残せるのは自分にしかできないと、真っ直ぐに語ってくれた。

兵庫県教育委員会と連携協定を締結しました

2月15日(土)、大阪大学会館で兵庫県スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 指定校による「課題研究合同発表会」を開催しました。この取り組みは、1月21日(火)、大阪大学と兵庫県教育委員会が、大学と高等学校における教育の質のさらなる向上を目指して、両者の連携・協力関係の基盤となる包括協定を締結したことにより実現しました。

今回の協定締結をきっかけに、兵庫県下の優秀な高校生が、本学をより身近に感じる機会が持てるよう、今後更なる連携を進めていくこととしています。



高校生による研究発表

大阪大学、edX に参入 MOOC として大阪大学の教育コンテンツを全世界に配信

大阪大学は、edX コンソーシアムと配信に関する協定書を締結し、edX プラットフォームからの教育コンテンツの配信を行うこととしました。MOOC として、大阪大学の特色ある教育コンテンツを全世界に向けて配信していきます。

edX は、マサチューセッツ工科大学とハーバード大学が共同で設立した MOOC 配信の非営利コンソーシアムで、世界から32の著名な大学が設立大学として参加しています。

大阪大学はMOOC 配信を通じて、グローバル社会における、学問を介した「調和ある多様性の創造」への貢献を目指します。



大阪大学の edX ページ
<https://www.edx.org/school/osakau>

外国人留学生修了パーティを開催

3月17日(月)、外国人留学生修了パーティを千里阪急ホテルで開催しました。

このパーティは、平成26年3月に本学を修了(卒業)予定の外国人留学生とその家族を平野俊夫総長が招待し、お祝いと懇談の場とするもので、毎年開催しています。当日は、本学教職員をはじめ、修了者のホストファミリーやボランティア、家主の方々も含めて約240名が参加し、参加者は写真撮影や団らんを楽しむなど、終始和やかなひとときを過ごしていました。

また、参加した留学生からは、「阪大の学生はフレンドリーだった」「留学生相談室がとても親切で安心して学生生活を送ることができた」「博士後期課程に進学しても頑張りたい」などの声が聞かれました。



修了者と記念撮影

人 事

理事

平成26年1月30日	尾山眞之助	退任
平成26年2月1日	大木高仁(人事労務戦略、多様な人材活用、事務改革担当)	

監事(非常勤)

平成26年3月31日	山崎優	退任
平成26年4月1日	内藤欣也	

副学長

平成26年3月31日	阿部顕三	退任
	江口太郎	退任
	吉川秀樹	退任
平成26年4月1日	星野俊也(国際公共政策研究科教授)	海外拠点、国際問題担当
	永田靖(文学研究科教授)	地域交流担当
	金倉譲(医学部附属病院長)	病院運営担当
	下田正(理学研究科教授・全学教育推進機構長)	教育担当

新総長補佐

平成26年4月1日	岩谷良則(医学系研究科教授・学生生活委員会委員長)	学生問題担当
-----------	---------------------------	--------

新理事補佐

平成26年4月1日	沖田知子(言語文化研究科教授)	国際戦略担当
	近藤勝義(接合科学研究所教授)	産学連携担当
	進藤修一(言語文化研究科教授)	教育担当
	野口眞三郎(医学系研究科教授)	人事労務担当
	深瀬浩一(理学研究科教授)	教育担当
	村上伸也(歯学研究科教授)	企画・評価担当
	山本達司(経済学研究科教授)	財務担当

新部局長

平成26年4月1日	文学研究科長・文学部長	和田章男
	人間科学研究科長・人間科学部長	中道正之
	言語文化研究科長	我田広之
	国際公共政策研究科長	村上正直
	生命機能研究科長	仲野徹
	高等司法研究科長	三阪佳弘
	医学部附属病院長	金倉譲
	歯学部附属病院長	前田芳信
	蛋白質研究所長	中村春木
	科学機器リノベーション・工作支援センター長	田中敏宏
	超高圧電子顕微鏡センター長	保田英洋
	ラジオアイソトープ総合センター長	藤堂剛
	国際教育交流センター長	有川友子
	太陽エネルギー化学研究センター長	戸部義人
	グローバルコラボレーションセンター長	平田收正
	全学教育推進機構長	下田正
	21世紀懐徳堂学主	永田靖
	適塾記念センター長	永田靖

新施設長		
平成26年3月31日	歯学部附属歯科技工士学校長	竹重文雄
平成26年4月1日	人間科学研究科附属比較行動実験施設長	志村剛
	理学研究科附属先端強磁場科学研究センター長	萩原政幸
	医学系研究科附属最先端医療イノベーションセンター長	西田幸二
	基礎工学研究科附属極限科学センター長	戸部義人
	基礎工学研究科附属未来研究推進センター長	茅田博一
	産業科学研究所附属国際共同研究センター長	沼尾正行

新教授			
平成26年2月1日	和佐勝史	【所 属】医学系研究科 附属医学科教育センター 【最終学歴】S56.3 大阪大学医学部卒業	【前職】本学准教授
平成26年3月1日	本行忠志	【所 属】医学系研究科 保健学専攻医物理学講座 【最終学歴】H3.3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
	小林孝行	【所 属】基礎工学研究科 システム創成専攻数理モデル講座 【最終学歴】H9.10 筑波大学大学院数学研究科博士後期課程修了	【前職】佐賀大学
	阿部真之	【所 属】基礎工学研究科 附属極限科学センター先端エレクトロニクス研究部門 【最終学歴】H11.3 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了	【前職】名古屋大学
平成26年4月1日	吉川徹	【所 属】人間科学研究科 人間科学専攻社会環境学講座 【最終学歴】H16.6 大阪大学大学院人間科学研究科後期課程修了	【前職】本学准教授
	河原行郎	【所 属】医学系研究科 医学専攻ゲノム生物学講座 【最終学歴】H16.3 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
	櫻井英博	【所 属】工学研究科 応用化学専攻物質機能化学講座 【最終学歴】H6.3 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了	【前職】分子科学研究所
	安田誠	【所 属】工学研究科 応用化学専攻分子創成化学講座 【最終学歴】H7.3 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授
	村田勲	【所 属】工学研究科 環境・エネルギー工学専攻量子エネルギー工学講座 【最終学歴】S63.3 大阪大学大学院工学研究科博士前期課程修了	【前職】本学准教授
	北岡康夫	【所 属】工学研究科 附属高度人材育成センター若手研究者育成部門 【最終学歴】H3.3 大阪大学大学院工学研究科博士前期課程修了	【前職】経済産業省
	杉山和靖	【所 属】基礎工学研究科 機能創成専攻推進工学講座 【最終学歴】H12.3 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了	【前職】理化学研究所
	藤本聡	【所 属】基礎工学研究科 物質創成専攻電子相関物理講座 【最終学歴】H5.3 京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了	【前職】京都大学
	松林伸幸	【所 属】基礎工学研究科 物質創成専攻環境・エネルギーシステム講座 【最終学歴】H3.5 コロンビア大学大学院化学専攻修士修了	【前職】京都大学
	瀨屋宏平	【所 属】基礎工学研究科 システム創成専攻固体電子工学講座 【最終学歴】H17.3 東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程修了	【前職】九州大学
	上原順一	【所 属】言語文化研究科 言語社会専攻ヨーロッパI講座 【最終学歴】H4.3 大阪外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	川北恭子	【所 属】言語文化研究科 言語社会専攻ヨーロッパ・アメリカII講座 【最終学歴】S62.3 大阪外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	高階早苗	【所 属】言語文化研究科 言語社会専攻ヨーロッパ・アメリカII講座 【最終学歴】H7.3 神戸大学大学院文化学研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
	進藤修一	【所 属】言語文化研究科 言語社会専攻ヨーロッパI講座 【最終学歴】H4.3 同志社大学大学院文学研究科博士課程 (前期) 修了	【前職】本学准教授
	後藤正之	【所 属】国際公共政策研究科 比較公共政策専攻現代日本法経システム講座 【最終学歴】S55.3 横浜国立大学経済学部卒業	【前職】内閣府
	三町勝久	【所 属】情報科学研究科 情報基礎数学専攻大規模数理学講座 【最終学歴】S63.3 名古屋大学大学院理学研究科博士課程前期修了	【前職】東京工業大学

新教授			
	名津井吉裕	【所 属】高等司法研究科 法務専攻 【最終学歴】H9.3 京都大学大学院法学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	松井和彦	【所 属】高等司法研究科 法務専攻 【最終学歴】H9.3 一橋大学大学院法学研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授
	関谷毅	【所 属】産業科学研究所 第1研究部門 (情報・量子科学系) 【最終学歴】H15.9 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了	【前職】東京大学
	大岩顕	【所 属】産業科学研究所 第1研究部門 (情報・量子科学系) 【最終学歴】H11.3 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了	【前職】東京大学
	駒谷和範	【所 属】産業科学研究所 第1研究部門 (情報・量子科学系) 【最終学歴】H14.11 京都大学大学院情報学研究科博士後期課程修了	【前職】名古屋大学
	関野徹	【所 属】産業科学研究所 第2研究部門 (材料・ビーム科学系) 【最終学歴】H2.3 東北大学大学院工学研究科博士課程前期修了	【前職】東北大学

定年退職者 (平成26年3月31日)

教員

文学研究科	市川明 武田佐知子
法学研究科	小野清美 森藤一史
経済学研究科	阿部武司
言語文化研究科	勝田茂 河野彰 杉本孝司 高階美行 森茂男
全学教育推進機構	兼田英二
日本語日本文化教育センター	田中四郎

事務・技術・医療職員

国際交流オフィス 学生交流推進課	勝木泰子
情報推進部情報基盤課	中島重雄
学生部学務課	田上馨
施設部整備課	福哲也
附属図書館	奥田正義
理学部	平田久仁子
医学部	勝本保雄
医学部附属病院	富田敏司 野口悟司 増田行雄 吉村英雄 竹岡啓子 浅利誠志 山本好一 中野卓 細坪貴久美 松田光子 榎本雅枝 岡田多津枝 細川武男

医学部附属病院管理課	楠秀明
歯学研究科事務部	美濃越進
工学研究科事務部	岩川和成
工学研究科経理課	濱地盛男
工学部	石井恵美子 久保等 清水保弘
基礎工学研究科事務部	田中裕久
基礎工学部	川井昭
言語文化研究科・外国語学部 質面総務室	西田清一
微生物病研究所	塩見清貴 上殿克巳
蛋白質研究所	小島愛子
接合科学研究所	堀之内力
超高压電子顕微鏡センター	坂田孝夫
保健センター	岡田比呂志
科学教育機器リノベーションセンター	塩見昌弘
核物理研究センター	木富敬一 西村義伸
レーザーエネルギー学研究センター	林正一郎

訃報

工学部	井川直哉 名誉教授	平成25年12月27日 逝去
工学部	西村正太郎 名誉教授	平成26年 1月20日 逝去
薬学部	吉岡一郎 名誉教授	平成26年 3月 6日 逝去
歯学部	堺 章 名誉教授	平成26年 3月20日 逝去
工学部	菊川真 名誉教授	平成26年 4月 1日 逝去

受賞(章)・表彰等

大阪大学学生チーム「CODDRESS」が全国ベンチャー企画コンテストで準優勝

大阪大学の学生チーム（CODDRESS）が、昨年 12 月に早稲田大学で開催された「University Venture Grand Prix 2013」（経済産業省主催）の最終審査で準優勝に輝きました。また、同時に米日カウンシルがスポンサーの TOMODACHI 賞を受賞。副賞として、メンバー全員がシリコンバレーへ招待され、1週間にわたる起業の勉強や投資家への説明の機会などが与えられました。

<大阪大学 CODDRESS メンバー>

王 偉（Wei Wang）さん 理学研究科 物理学専攻 国際物理特別コース 博士後期課程 2 年生
周 暁（Xiao Zhu）さん 理学研究科 物理学専攻 国際物理特別コース 博士前期課程 2 年生
Julian Grinblat さん 理学部物理学科 3 年生
関屋 弥生さん 外国語学部英語専攻 4 年生
霍 婕（Huo Jie）さん 2013 年大阪大学法学研究科修了。現在は、堺筋総合法律事務所に勤める。



平野俊夫総長へ審査結果を報告(本年1月)

第 3 回サイエンス・インカレにおいて大阪大学の学生 5 名が表彰されました

3 月 1 日(土)、2 日(日)、幕張メッセ国際会議場で文部科学省主催の第 3 回サイエンス・インカレが開催され、本学から 5 名の学生が表彰されました。サイエンス・インカレは、全国の理系学生に自主研究を発表する場を設けることにより、理系学生の能力・研究意欲を高めるとともに、課題設定能力、課題探索能力、プレゼンテーション能力等を備えた創造性豊かな科学技術人材を育成することを目的として開催されているものです。

サイエンス・インカレ奨励表彰

東京エレクトロン賞（東京エレクトロン株式会社）

五十嵐拓哉さん 工学部応用自然科学科 4 年 駒井 尚子さん 工学部地球総合工学科 4 年
田村 直也さん 工学部応用理工学科 4 年
寺垣 歩美さん 工学部応用自然科学科 4 年
岩切 秀一さん 理学部物理学科 2 年



平成 25 年秋の叙勲

柳田孝司 名誉教授 (理学部)	瑞宝中綬章
-----------------	-------

受賞等		
人間科学研究科	清水 (加藤) 真由子 助教	第 23 回日本発達心理学会学会賞
	大西賢治 助教 (受賞時)	
	金澤忠博 教授	
	日野林俊彦 教授	
理学研究科	小林研介 教授	第 10 回日本学士院学術奨励賞
医学系研究科	森正樹 教授	佐川がん研究振興財団 第 11 回佐川特別賞
	八木雅史さん (D4)	2013 RSNA Trainee Research Prize
	金井好克 教授	日本薬理学会 第 7 回江橋節郎賞受賞
薬学研究科	山崎聖司さん (D2)	日本学術振興会 育志賞
工学研究科	安本周平さん (M2)	テクノルネサンス・ジャパン 第 6 回アイデア・コンテスト ・スリーボンド最優秀賞 ・デンソー優秀賞 ・東レ優秀賞
	角田紗也さん (M2)	
	中村匡さん (M2)	
	坂隆裕さん (M2)	
	平野哲郎さん (D1)	テクノルネサンス・ジャパン 第 6 回アイデア・コンテスト 大日本印刷優良賞
	中西大輔さん (M2)	
基礎工学研究科	久山耕平さん (M1)	第 12 回低温工学・超伝導若手合同講演会 低温工学・超伝導関西若手奨励賞
	森健雄さん (M2)	第 27 回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム JSR14 学生発表賞
	隅倉麻子さん (M1)	電子情報通信学会 集積光デバイスと応用技術国際研究専門委員会 学生ポスター優秀賞
産業科学研究所	池應敏行さん (M2)	電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ 第 5 回マイクロ波・ミリ波フォトニクス (MWP) 研究会 優秀学生論文賞
	服部梓 助教	第 7 回資生堂女性研究者サイエンスグラント

第 7 回大阪大学総長による表彰

人間科学研究科	山田一憲 講師	工学研究科	堀司 特任講師
経済学研究科	阿部顕三 教授		川妻恵理 技術専門職員
理学研究科	花咲徳亮 教授		岡田博之 技術職員
	橋爪章仁 准教授		内田雅之 教授
	小田原厚子 准教授		宮崎文夫 教授
	栗村直人 助教		狩野裕 教授
	古木良一 技術専門員		佐藤宏介 教授
医学部附属病院	福森優司 主任		越山顕一郎 助教
	竹尾映美 特任臨床検査技師		浦西友樹 助教
薬学研究科	赤井周司 教授		新岡宏彦 助教
	好光健彦 准教授		本庄浩司 技術職員
	吾郷由希夫 助教		松林哲也 准教授
工学研究科	菊地和也 教授		木下和彦 准教授
	加賀有津子 教授		石井優 教授
	原島俊 教授		吉田秀人 准教授
	大村悦二 教授		村松大吾 特任講師
	上西啓介 教授		藤原宏平 助教
	山本孝夫 教授		石橋美香 主任
	大竹久夫 教授		中島清一 特任教授
	金子嘉信 寄附講座教授		網代広治 特任准教授
	杉山峰崇 准教授		住村欣嗣 准教授
	若本和仁 准教授		白鳥昂太郎 助教
	松村暢彦 准教授		貝原亮 係長
	森裕章 准教授		寺野江美 事務職員
	倉敷哲生 准教授		

退職時 (平成 26 年 3 月 31 日) 永年勤続者表彰

国際交流オフィス学生交流推進課	勝木泰子	医学部附属病院	浅利誠志	微生物病研究所	上殿克巳
情報推進部情報基盤課	中島重雄		竹岡啓子		塩見清貴
学生部学務課	田上馨		吉村英雄	蛋白質研究所	小島愛子
施設部整備課	福哲也		細坪貴久美	接合科学研究所	堀之内力
附属図書館	奥田正義		野口悟司	超高压電子顕微鏡センター	坂田孝夫
医学部	勝木保雄		増田行雄	保健センター	岡田比呂志
医学部附属病院	富田敏司	医学部附属病院管理課	楠秀明	科学教育機器リノベーションセンター	塩見昌弘
	細川武男	歯学研究科	美濃越進		
	大石雅子	工学部	清水保弘	核物理研究センター	木富敬一
	田中春美	工学研究科	岩川和成		西村義伸
	古久保剛司	工学研究科経理課	濱地盛男		
	松田光子	基礎工学研究科	田中裕久	レーザーエネルギー学研究センター	林正一郎
	岡田多津枝	言語文化研究科・外国語学部質面事務室	西田清一		
	榎本雅枝				

大阪大学未来トーク 2014 年度前期

次回



第9回 平野俊夫総長

「目の前の山を登りきる」

4月21日(月) 17:00-18:30
大阪大学会館3階講堂(豊中キャンパス)



第11回 青木 保

国立新美術館館長 大阪大学名誉教授

「グローバル化と異文化理解」

6月23日(月) 17:00-18:30
大阪大学会館講堂



第10回 加藤友朗

コロンビア大学医学部教授

「[No] から始めない生き方
- 先端医療で働く外科医の発想」

5月26日(月) 17:00-18:30
コンベンションセンター(吹田キャンパス)



第12回 遠山敦子

元文部科学大臣 公益財団法人トヨタ財団理事長

「挑戦のすすめ(仮題)」

7月22日(火) 17:00-18:30
大阪大学会館講堂

今年度から、メイン会場とは別に以下のサテライト会場を大阪大学各キャンパスに設け、吹田・豊中・箕面・中之島のどの地域でも未来トークをご覧いただけます。

吹田キャンパス：銀杏会館 三和ホール
箕面キャンパス：プレゼンテーションルーム(研究講義棟B棟1階)
中之島センター：10階 佐治敬三メモリアルホール
豊中キャンパス：大阪大学会館3階講堂(第10回のみ)

◇申込不要、先着順、参加費無料
◇お問い合わせ先
大阪大学未来戦略支援事務室総務係
mirai-talk@iai.osaka-u.ac.jp

大阪大学未来トーク 2014 検索



平成26年度いちょう祭

日 時：5月2日(金)～3日(土・祝日)
会 場：豊中キャンパス、吹田キャンパス

第9回ホームカミングデイ

日 時：5月3日(土・祝日) 10:30～13:30 (10:00 受付開始)
会 場：大阪大学会館 講堂(挨拶・活動報告・卒業生による講演)

図書館下食堂(懇談会：参加費1,000円)

プログラム：大阪大学の近況報告、大阪大学同窓会連合会会長ご挨拶、本学卒業生による講演を行います。本年の講演は、公認会計士という仕事の内容や考え方をわかりやすく解説する著書多数で、様々な媒体で活躍中の公認会計士・税理士 山田真哉さん(1998年文学部卒)。

※参加申し込みについては、本学公式ウェブページをご覧ください。



大反響を呼んでいるドーナツ本の制作 「ショセキカプロジェクト」メンバーが平野総長へ報告

4月1日(火)、「ドーナツを穴だけ残して食べる方法 越境する学問～穴からのぞく大学講義(大阪大学出版会)」の制作に携わったショセキカプロジェクトのメンバーが、平野俊夫総長のもとを訪れ、出版の経緯や反響の大きさなどについて報告しました。この書籍は、2月中旬に発行し、すでに第3刷となっており、様々なメディアで取り上げられるなど大反響を呼んでいます。

平野総長からは、「こんな楽しい先生方がたくさん居るんだというのが伝わると、大阪大学のイメージも良くなりますね(笑) ぜひ、皆さんの次の世代にバトンタッチしていただいて、今回とはまた違う切口で第2弾、第3弾とつなげていってほしいですね」と激励の言葉がありました。

なお、売り上げの一部は、大阪大学出版会から大阪大学未来基金に寄付される予定です。



平野総長とプロジェクトメンバー



中之島センター

Handai-Asahi 中之島塾(4～6月期)

開催日時：4月12日(土)～6月21日(土)

開催場所：中之島センター

講演者等：①高島幸次(CSCD 招へい教授)

②坂口志文(免疫学フロンティア研究センター教授) ③八木康史(産業科学研究所教授)

④志水秀郎(医学系研究科准教授) ⑤深尾葉子(経済学研究科准教授)

⑥小矢野哲夫(言語文化研究科教授) ⑦南野哲男(医学系研究科講師)

⑧蜂矢真郷(名誉教授)

参加方法：朝日カルチャーセンター中之島教室のウェブページまたは電話(06-6222-5224)により申込(随時受付)。

参加費用：受講料各回1,620円(全2回の講座は3,240円) 朝日カルチャーセンター入会金は不要。

問合せ先：21世紀懐徳堂 TEL: 06-6850-6443



総合学術博物館 第7回特別展

漢方今昔物語：生薬国産化のキーテクノロジー

開催日時：会期：4月26日(土)～7月19日(土) 休館日：日曜・祝日。

ただし、4月27日(日)、5月3日(土・祝)は開館。開館時間：10:30～17:00

開催場所：総合学術博物館 待兼山修学館

※大阪大学会館3階 歴史展示室にも展示

参加方法：入館料：無料

問合せ先：総合学術博物館 待兼山修学館 TEL: 06-6850-6284

大阪大学×大阪ガス「アカデミックッキング」

“食”や“料理”という身近な切り口から、学問的なものの見方・考え方を身につける教養講座です。専門的で難解な大学の先生の研究でも、どこかで普段のわたしたちの生活とつながっている…。そんな楽しい実感から、日常生活にちょっと変化をもたらすアカデミックな思考回路が生まれます。あなたも一緒に、ガス火で作る料理から新たな学びのとびらを開いてみませんか？



①vol.46

「誘惑と自制のあいだ～肥満とやせの経済学」

開催日時：5月22日(木) 18:30～21:00

講演者等：池田新介(社会経済研究所教授)

開催場所：大阪ガスッキングスクール千里(せんちゅうPAL1F)

参加方法：大阪ガスッキングスクールウェブページ(①4/1～21②5/1～20)または電話(①4/9～21②5/8～20)により申込。定員28名。

15歳以上どなたでも参加可(申込多数の場合は抽選、受講料2,100円)

問合せ先：申込は、大阪ガスッキングスクール千里 TEL: 06-6871-8561

講座内容についての問合せは、21世紀懐徳堂 TEL: 06-6850-6443



②vol.47

「食中毒予防のための正しい知識～食中毒よもやま話」

開催日時：6月26日(木) 18:30～21:00

講演者等：児玉年央(微生物病研究所講師)

「適塾」再オープンのお知らせ

史跡・重要文化財「適塾」は、耐震改修工事のため、昨年10月から休館しておりましたが、5月15日から再オープンします。

再オープン記念イベントに関する情報は、本学公式ウェブページや facebook ページで随時お知らせします。



改修工事中の適塾
(本年2月)

(「阪大 Quiz」の答え)

大阪大学記念日。大阪帝国大学開学式が1931年5月1日、長岡半太郎新総長、田中隆三文部大臣を迎え、中之島の医学部講堂で挙行されました。



開学式において式辞を
読む長岡新総長
(医学部講堂 昭和6年
5月1日)
(大阪大学「写真集
大阪大学の五十年」より)

大阪大学東京オフィスをご利用ください

大阪大学は、創立100周年を迎える2031年に「世界トップ10の大学になる」という夢の実現に向け、研究・教育の飛躍的な発展を目指すべく、首都圏における本学の活動拠点として「大阪大学東京オフィス」を開設しました。

大阪大学の教職員（元教職員を含む）、学生、卒業生など、関係者の方に4月10日からご利用いただけるようになりました。

利用施設・利用方法など詳細については、本学公式ウェブページをご覧ください。



平野俊夫総長（左）と岡村康行理事・副学長（東京オフィス長）

大阪大学東京オフィス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル10階
TEL: 03-6205-7741 Fax: 03-6205-7743 email: ou-tokyo-office@ml.office.osaka-u.ac.jp

- ・東京メトロ銀座線「虎ノ門」駅 7号出口から北へ徒歩1分
- ・東京メトロ千代田線・日比谷線・丸の内線「霞ヶ関」駅 A12号出口から南へ徒歩3分



© OpenStreetMap contributors

湯川秀樹先生愛用の黒板

湯川先生がコロンビア大学在籍中（1949年～1953年）使用されていた黒板（写真）が、同大学から理学研究科に移設されました。湯川先生は1933年から6年間、大阪大学で研究をされていた縁で理学研究科が譲り受けました。H棟7階のコミュニケーションスペースに据え付けられた黒板を使って学生らが勉強を行っており、大阪大学の貴重な財産として保存と活用をしていくこととしています。来月披露式典を行う予定です。



大阪大学未来基金 “創立100周年ゆめ募金” にご協力ください

大阪大学は「創立100周年、世界トップ10、未来基金100億円」を目標として、“創立100周年ゆめ募金”を開始しました。

【問い合わせ】

大阪大学基金室

TEL: 06-6879-8327/FAX: 06-6879-4337

Email: kikin@office.osaka-u.ac.jp

<http://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp>



大阪大学
未来基金

